ファーンデイル訪問に寄せて

南房総国際交流協会　会員　杉井純代

ファーンデイル・カナダとの国境を背に、アメリカ北西部の北端にあるこの町は、６０年前に館山市と姉妹都市締結したベリンハム市の北側隣の市です。２７年前には三芳村がファーンデイル市と姉妹都市を結んだと聞いております。そして南房総市に引き継がれ、交流が続いております。この古き良きアメリカが残っている片田舎の町を訪問することになり、わずか４日間の滞在でしたが、私は多くの感動と思い出をいただきました。

７月２７日にアメリカ入りし、歓迎会ということで市役所隣の図書館で手作りの心温まる歓迎を受けました。その後各ホームステイ先のホストに対面し、そのお宅に向かう途中、スーパーマーケットに寄り、物価をリサーチしました。ほぼ日本と同じくらいですが、肉類はかなり安い、野菜は緑の葉物がほとんど見られない、あるのはレタスとブロッコリーくらい、果物はアメリカンダークチェリーが旬を迎えているようでした。ステイ先でご馳走になりましたが、酸味が強く、日本の果物の甘さを思い知りました。スナック菓子はジャンクフード満載という感じで、あまり健康的とは言えません。量もメガ級です。

私のホストは協会の会長を務めるキャシーさんという方です。小奇麗に整頓された家には大型の冷蔵庫があり、彼女はポークチャップを作ってくださり、美味しくいただきました。

２日目には移民祭があり、パレードが予定されており、私たち一行も姉妹都市として参加しました。移住年数による色分けしたリボンを前日に受け取っており、白のリボンを胸につけ集合場所へ急ぎました。ハンディキャップのある人にはとてもスマートに当然のようにサポートがあり、足の悪い私にも、これぞアメリカというようなオールドスタイルのオープンカーが用意されており、たいへん恐縮いたしました。

恥ずかしながら車のなかで手振りだけの白浜音頭を踊りながら、ふっと顔をあげると沿道には市民の方が大勢いて、「こんにちは」「こんにちは」と声かけをしてくださいます。こんなに大きなパレードとは思っていなかったのですが、１００以上の団体が参加したそうです。アメリカらしい楽しいパレードでした。

３日目は日曜日です。各ホストの方たちは教会関係者が多く、日曜礼拝のお勤めがあります。私たちもなかなか経験できないことなので参加させていただきました。教会というところはその地域のコミュニティといった感じで、牧師さんを中心にした互助会のような役割があるのだと思いました。教会の片隅に最近家族を亡くされた方へのメッセージや心を寄せた伝言カードなどを入れる箱が置いてあり、感動いたしました。なんという優しい心配りでしょう。礼拝後はお茶を飲みながら、社交の場にもなっているようです。

教会を後にして、午後は南ベリンハムにあるショッピングモール街、フェアフェブンに行きました。ここにはアラスカ行きフェリーのターミナルがあり、アメリカの北端であることを十分に感じることができました。

その後キャシーが彼女の友人を訪ねるというので同行しました。新興住宅地のようです。どの家もガレージが開いており、ホンダ・トヨタ・スバルなどの日本車が多く駐車されておりました。ちなみにキャシーの車はカムリです。日本人としてちょっぴり嬉しくなりました。

楽しい日々はあっという間に通り過ぎます。最終日はマウントベイカーという山にピクニックです。マウントベイカーは日本の富士山と同じくらいの標高だそうですが、５合目まで車で行くことができます。ここはカナダに近いので、カナディアンロッキーに連なっているのでしょうか。風景は完全にカナダです。

夜はマチュラー市長のお宅でサヨナラパーティです。ジョン・マチュラーさんは、市長・牧師・ジャズピアニストと多彩な顔をお持ちです。私たちにお手製のハンバーガーを振る舞い、ポットラックパーティを開いてくださいました。私も前夜キャシーをお手

伝いして作ったポテトサラダを持参しました。

　市長のお宅に続く丘にはブルーベリーなどを生産している広大な農地が広がっています。耕作面積がただの広さではありません。やはりアメリカは大きい、何もかも大きいと実感しました。最後は市長のジャズコンサートでお開きとなりました。何とも素敵な夜でした。

　こうして、たくさんのなるほどをいただき、好奇心を満たし無事に帰国することができました。両市の協会の皆様にお世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。

　もちろん家族にも感謝しつつ、１週間も不自由をかけたにもかかわらず、「また行きたい」と言ってしまったファーンデイルでした。